

特選 1 席

(本日のステージでの選者発表順)
題詠・自由題の順に掲載



● 栗木 京子 選

働くな農を止めよと子ら言へど大根の芽は天を指してる
指し棒のすうつと走る台風の進路にまたも我が町の入る

鹿児島 有田イチエ
静岡 早川 和久

● 穂村 弘 選

団子虫ほうきで掃かれてころろと命を天に委せてゆけり
死にかけの蟬におどろく母がいるおどろく母が私は怖い

群馬 大塚とみこ
千葉 広瀬 結

● 坂井 修一 選

いつの日か聞かかも知れぬ天敵ハ絶滅シタとAIの声
アインシュタインの脳標本^{なづき}ひんやりと解なき世界の隅に黙^{もだ}せり

東京 住友 秀夫
静岡 林 充美

● 池田はるみ 選

好好爺をすきすきじいと孫は読む気持にまっすぐ天晴なよみ
おどる子や豚の鼻する子等なだめ義母の祝の撮影終わる

神奈川 岩崎 幸子
神奈川 石黒 雅子

● 三枝 昂之 選

存分に鳴き通したるみんなの仰臥に広し天空の青
澄みわたるブルーが僕を満たしてくソロで登った冬のアルプス

東京 山口 楓子
茨城 西村 宗倫

● 大島 史洋 選

いまはもう誰も住まないふるさとの明日の天気を見てから眠る
昼寝より先に目覚めし三つの子が我にふうはりタオル掛け去ぬ

神奈川 杉本 恭子
東京 市川 夕夏

● 松村由利子 選

水無月の天よりけさも鳥語降る緑ふかまる少子化の里
老老の介護にみえるよだいじようぶ手をつなごうか昔のように

石川 濱邊 孝子
埼玉 房野 明美

● 伊藤 一彦 選

うんち出たとおまる抱えて来たる子と天に向かって万歳をする
「んとす」とふ言葉に終はる広辞苑地球の窪みに嵌つたやうで

宮崎 兒玉 瑛子
神奈川 金井 千露

● 東 直子 選

暑さから暑さこぼるる橋ゆけば信号待ちのきみが見る天
「家」の字の中に住んでるかたつむり流さぬようにして墓洗う

フランス 松本 実穂
神奈川 小木 出

● 佐佐木幸綱 選

天国が舞台の劇で声だけの出演ボクは「宇宙の原理」
試験管ひしひしと柵に林立しわが青春は研究室^{ラボ}より出でず

岡山 小橋 辰矢
福岡 中村 重義

● 永田 和宏 選

隙間なく豚は荷台に乗せられて高速道路の曇天を行く
避難所のどこに置くのか通信簿見せたい母のいないその子は

茨城 松本 住江
宮城 阿部みゆき

● 小島ゆかり 選

天からの授かりものであるきみはまだ人よりも雲に似ている
幼くても力合はせればできるぞと祖父が教へし蚊帳のたたみ方

埼玉 関根 裕治
岡山 森永 瑞枝

● 佐伯 裕子 選

天からの授かりものであるきみはまだ人よりも雲に似ている
おにいいさいいこゑだねと母が言ふさうよさうだよわれは子なれば

埼玉 関根 裕治
神奈川 大森 正道

● 篠 弘 選

山々を登りて想ふ夢の夢マチュピチュ見たし天空世界
コカリナの音色は雲雀たちまちに広きホールは野原となりぬ

神奈川 北島 淑子
滋賀 直木 逸子

● 小池 光 選

暴風に千年の樹樹倒されて見たこともなき天が現る
銀座には銀座の秋の空ありて小さき画廊に椅子ふたつ見ゆ

大阪 衛藤 千景
東京 岡本 和子

● 水原 紫苑 選

天才といわれし息子いまだのひとり だけど守ってくれる
臓器らはことばを發し助け合う手本とすべし国際社会よ

東京 森田小夜子
東京 薄井 一彰

● 真中 朋久 選

震災の年の日記は四月までただ天候と死者の数のみ
ナーセリー巡りて漸く見つけたる山椒や茗荷に祖国が香る

兵庫 山手 漾子
アメリカ 中原キャシー

● 斉藤 斎藤 選

天上の魚焦がしていませんか来世は男になれそうですか
友の住む熊谷までも記録され過ぎれば甘き梨とどきたり

三重 前田 千文
茨城 山上ふみ子



◆特選二席——自由題（選者五十音順）

池田はるみ選 和歌山 北山 泰子

目の塵に足届かざる騏驎らは涙をどつと流すんだって

伊藤 一彦選 茨城 黒澤 正則

きみの薔薇きみの芍薬きみの沙羅きみがあふれてきみだけいない

大島 史洋選 東京 中村恵里子

仕事終えあなたは湯気立つカフェオレをあやすみたいに手に包み飲む

栗木 京子選 兵庫 富家 新子

春色のつば広帽子のレディーとなり相部屋の人退院したり

小池 光選 静岡 ま す み

母逝きて子であることは終りけり崖落ちるごとわが老後来る

小島ゆかり選 山口 松本 進

百均のレインコートを元通り畳むあなたは何かに耐える

三枝 昂之選 神奈川 仁位 義明

かの赤きアルファロメオを想いつつ免許返納 紅梅ひらく

斉藤 斎藤選 神奈川 藤井ふさ子

身動きのままならぬ夫を支えつつ裸身二つが湯船に沈む

佐伯 裕子選 静岡 早川 和久

指し棒のすうつと走る台風の進路にまたも我が町の入る

坂井 修一選 ブラジル 山本 康子

アマゾンの新侵掠者ドローンが撮ったインジオは空見上げぬか

佐佐木幸綱選 埼玉 安藤 靖二

電線がなくなり空は江戸の空 今朝はごくりとカルピス飲んで

篠 弘選 東京 宮崎 洋子

罪びとが家畜に転生するというシャガールの描く驢馬^{ろば}の目やさし

永田 和宏選 東京 岡本 和子

銀座には銀座の秋の空ありて小さき画廊に椅子ふたつ見ゆ

東 直子選 オーストラリア 高山 征三

新しき暮し始めるきみのゆく北の夕空半月浮かぶ

穂村 弘選 埼玉 針ヶ谷乃里子

地球儀の傷みたいねと子はいひぬ日出づる国をそつと撫でつつ

松村由利子選 東京 高橋 キン

ラーゲリの名前代はりの番号は何桁なりしや兄の終の地

真中 朋久選 東京 西郷美智子

若き日の吾が恋のこと子らは知らず子らの恋をも吾は知らざる

水原 紫苑選 神奈川 金井 千露

「んとす」とふ言葉に終はる広辞苑地球の窪みに嵌つたやうで